

平成 22 年度第 1 回府中市美術館運営協議会結果報告書

- 1 日 時 平成 22 年 8 月 21 日 (土) 午後 1 時 30 分～3 時 30 分
2 場 所 府中市美術館会議室
3 出席者 委員 (順不同・敬称略)
中林、小野澤、鈴木、高橋、田中、藤原、上岡、宮本委員
(宝木、松浦、那須委員欠席)
事務局 井出館長、石井副館長、菊池管理係長、志賀学芸係長、
武居教育普及担当主査、関主任

4 内 容

- (1) 府中市美術館運営協議会会長挨拶
- (2) 府中市美術館館長挨拶
- (3) 資料確認
- (4) 議題の審議

5 議 題

- (1) 地域における府中市美術館の運営のあり方について
資料 1～4 について事務局から説明、報告の後、審議がなされた。また、今回の審議内容をまとめ、正副会長に最終内容を一任し、館長へ答申することで決定した。さらに、資料 4 について事務局より補足説明がなされた。

報告 資料 4 平成 22 年度絵画作品の購入について

収集作品 高橋由一 《墨水桜花輝耀の景》

当館は開館以降現在まで購入 600 点、寄贈 800 点を合わせ計 1400 点を所蔵し、優れた作品を身近に鑑賞できる場として充実に努めてきた。小中学校で使用される美術教科書に掲載される作家作品も収蔵するなど地域の子どもの学習にも貢献している。

これまでの府中市美術館所蔵品には明治以降の多摩・武蔵野の風景表現に関する作品が多数含まれている。これを特徴づけるような大型作品を収集することができれば、コレクションにまとまりを持たせることができ、市民にわかりやすく当美術館の収集品の特徴を伝えることができる。

当該作品は神奈川県立近代美術館他の『没後 100 年高橋由一展』で展示され、すぐに NHK 日曜美術館で放映されるなど、新発見の名品として話題となった作品である。この作品は制作後すぐに宮内省買い上げ作品となったもので、その後女官長、織物業者と経緯した。江戸の美意識と明治の近代的視点をつなぐ高橋由一の名品中の名品である。本年 9 月開催の「バルビゾンからの贈りもの―至高なる風景の輝き」に出品予定である。また、所蔵家は、公立美術館を所蔵先として探しており、府中市美術館の活動およびコレクションの方向性を高く評価し、作品譲渡の交渉に入り、府中市

美術品収集選定委員会と議会承認を経て、今回の決定に至った。

[主な審議内容]

(中林会長) 資料1について今回ご審議いただくわけだが、事務局で大項目を作りまとめたものなので、ご確認をいただきながら、今回の発言を加味して最終的な答申書を作成したい。

(宮本委員) 会議全体の進め方についてだが、会議の内容などをトータルのデータベース化してほしい。また、前回の会議の内容についての学芸員等の説明があれば、さらに良いと思われる。

(中林会長) 答申書や会議録は情報として公開されている。現実には、具体的な内容をもとに、答申書もできている。それによって、次回以降の協議会へつなげていく、対外的効果となっている。

事務局 美術館運営協議会も10年目を迎え、これまで様々な答申をいただいていた。展覧会への要望やパブリックアートのあり方等についてなど、多くの事柄を美術館運営に取り入れてきている。

(小野澤委員) 美術鑑賞教室を充実してほしい。小学生にとっては美術館がどういう所か知るために、また、鑑賞する際のマナー習得も重要である。中学生の場合は多感な時期であり、自我が芽生え、美術を鑑賞することはとても大切である。スクールアート10のシンポジウムで井出館長が「子どもに対して、鑑賞の良い環境づくりを心がけている」とお話しされていたことが印象に残っている。さらに、府中市美術館は地域の先生方や、その研究会などと強い連携を作り上げている点も評価できる。

(中林会長) 具体的にはどのようにしたらよいか。

(高橋委員) 中学生の場合、長期休業中である夏休み中に鑑賞教室として自由に行かせている。また、ギャラリーツアーと称して、中学校の教員が学芸員より指導を受けて、子どもたちと一緒に観賞することも実施した。中学生は夏休み中に自由に鑑賞することで、日常的な価値観とは異なる授業を体験できると言える。

(鈴木委員) 府中市全体の予算面では厳しい状況であるが、バスの借上げなど削減せずに続けてほしい。

(田中委員) たとえば退職した美術教諭などをお願いしてみて、解説ボランティアの育成を図ったらどうか。

(中林会長) 美術鑑賞教室を含む美術普及事業は、10年で着実に成果が上がっていると思う。

(藤原委員) 運営の仕方を間違えないように、きちんとした組織づくりをした方がよい。感じてもらうことが大切で、押しつけになってはほしくない。対応の仕方に工夫が必要と思われる。

(上岡委員) 今後、専門的知識を持ったサポートスタッフも育てていくべきである。

(小野澤委員) 5歳児(保育園児)のためのお散歩美術館をNPOとして実施したが、保護者の方にたいへん好評だった。美術館に来た園児たちが自分の好きな絵の目録を家に持ち帰り、その後、保護者の方が美術館を訪れるというケースが増えた。

(中林会長) 親を巻き込む企画はとても良いと思う。小学校低学年でも美術館教育はむずかしい。また、府中市は小・中学校は力を入れているが、高・大・成人に向けての取り組みはどうか。

事務局 土曜工房、美術館講座、ワークショップなどの事業を実施しているが、特に高校生・大学生を取り込んでいくことは今後の課題であると思われる。実際、大学生は多摩地域の大学、武蔵野美術大学や東京学芸大学の学生とは、公開制作のガイド普及員の活動などを通して、日常的にも交流がある。ワークショップや美術館講座などは、年配の方々の参加も増えてきている。高校生については、まだまだ未知数であり、試行錯誤の段階といえる。

(藤原委員) 高知県の方で高校生対象の事業に関わっているが、高校生が一番興味を示すのが「漫画」である。町中でギャラリー展示などを行っている。高校生には漫画による企画など取り入れてみたらどうか。また、高齢者は「エコでアートする」といった企画に対して関心が高いと思う。

(上岡委員) エコの作品展、造形的なダンボールを使った市民ギャラリーの展示はとてもよかった。

事務局 スクールアート10のドラゴンチェアの作品展示ではないか。

(上岡委員) 創作室などを使い、年に一回、在住作家による絵画展などはどうだろうか。

(館長) 市民ギャラリーを利用して、市の芸術文化祭やグループ展なども行われている。今後は在住作家展なども計画している。

(上岡委員) 美術館に誘い込む方法をいろいろと検討してほしい。

(小野澤委員) 平日の美術館の1階スペースは、高齢者の方や障害者の方がとても丹念に観ている。公開制作のコーナーが生かされていないのではないかと。公開制作は府中市美術館の特徴的なものであるが、内容がわかりにくい点がある。

(藤原委員) メッセージや作成期間などをきちんと表示すべきと思う。

(小野澤委員) 公開制作のあり方や内容について、今後検討すべきと思う。解説員がいる時もあるが、全ての市民に対して開かれた美術館を目指してほしい。

(中林会長) タイトル付け、キャッチコピー、ポスター、チラシなどわかりにくいといった発言があるが、広報宣伝自体に付け加えるべき建設的な意見をいただきたい。

(上岡委員) 入口正面、エスカレーターの壁面に貼ってある今回の展覧会の

ポスターは、パッと見て明るくてよい。スペース、大きさ、色合いなど目立っていて効果的、よくできている

(中林会長) 今までと違う体制があるのか。

事務局 今回は市内在住のデザイナーにお願いして、制作したものである。昨年度は「ぱれたん」であったが、違ったもので印象に残るものにした。

(藤原委員) ルートを確立してほしいとあるが、四季の話題を取り入れた、地域の情報を網羅したマップづくりをしてはどうか。

(小野澤委員) 現在、NPO法人アプタで写真入りのマップを作成中である。ボランティアを中心に月1回の活動で作成している。府中、東府中、美術館通りからの美術館へのアクセス、また、帰り道案内のマップにしたいと思っている。

(中林会長) ルートは重要である。小金井駅、府中駅のバス亭の案内表示はわかりやすくてよい。

(小野澤委員) 地域の中の美術館という観点からすると、現代美術の入場者数は少ないように思う。

事務局 府中ビエンナーレは4回で一区切りをつけて終了している。12月からの「アートサイト府中2010」展は美術館外部でのイベントやルミエール府中や伊勢丹フォーリス広場でのサテライト展示なども計画している。さらに、スタンプラリーなども取り入れて美術館への人の流れをつかみたい。

(館長) 今年度については、皆様からいただいたご意見をもとに、地域の中の美術館として江戸から現代への企画展、市民に親しめる美術館としてのエントリー等、皆様の英知が凝縮しているものとなっている。

(小野澤委員) 収蔵作品は市民にとって財産であると思う。月1回の常設展でのギャラリートークを復活させてほしい。所蔵品の魅力を市民に伝えてほしい。

(藤原委員) 所蔵品を公開情報として、ホームページなどでいつでも見られるようにしている所もあると聞いたことがある。

(中林会長) 日本人はイベント好きで、所蔵品(=常設展)をわざわざ観に行くことは少ない。

事務局 確かに公立美術館の場合は、期間限定のイベントに行く人は多い。

(宮本委員) 美術館の照明について、暗すぎるのではないか。それと写真撮影はできないものなのか。

(中林会長) 照明については、作品が光にあたればあたるほど、作品を劣化させる。公開するにあたっては、細心の注意を払っている。写真撮影禁止については、作者の著作権を侵害するなど様々な問題がある。企画展の場合、作品をいろいろなところから借りてくるので、所蔵者の意向もある。

(館長) 照度についてはある一定の基準がある。

(田中委員) 最初の展示室は明るくして、だんだん暗くするといった手法もある。

(中林会長) ガラス面の反射など、現場は日々、研究しているので、市民の声は大切と思う。資料1全般について、観覧料の設定や受益者負担の必要性など、今後の検討課題といえる。

(田中委員) 収蔵品展(常設展)の項目を追加した方がよい。収蔵品は年々充実してきている。常設展の会期中の展示替は非常に評価できる。また、ワークショップは普及事業に入れた方がよいと思う。

(中林会長) 答申書の文案を事務局でとりまとめ、作成し、各委員に確認したうえで、正副会長から正式な答申として館長に提出する。2年間、ご苦労さまでした。

(2) その他
なし